

命を守る行動がとれる子供の育成

～危険を理解・予測し、その状況下で最善を
尽くすことを目指して～

龍郷町立戸口小学校
教諭 貴島 由香

1 はじめに

本校は、龍郷町の南に位置し、全校児童 35 人の小規模校である。学校は、海や山に囲まれた自然豊かな立地にあり、戸口川や大美川も流れている。そのため、2010 年、2011 年の豪雨災害では、川が氾濫し大きな浸水被害にあった。その後、川幅拡張工事が行われ、氾濫は起きていないが、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されている箇所も多く、水害の危険性ははらんだ地域である。

2 児童の実態

昨年度実施した「自然災害に関するアンケート調査」から、子供たちの約 84% が災害発生に対して不安を抱いており、約 90% が災害発生時にどのように行動すればよいか分からない、自信がないということが分かった。

また、約 86% が災害発生時の対応について具体的な話し合いを家族としていないということも分かった。(保護者は 39% 差 47%)

これまで行ってきた避難訓練の課題が見えると同時に、防災教育を行う上で家庭や地域との連携は欠かせないと実感した。

3 目指す子供像

高学年	様々な自然災害発生時の危険について理解・予測し、日常的な備えと的確な判断ができ、迅速に自分の命を守り、主体的に地域貢献活動に取り組むことができる子供
中学年	様々な自然災害発生時における危険について理解し、日常的な備えと適切な判断ができ、自分の命を守る行動をとることができる子供
低学年	自ら、自然災害時の危険な状況に気づき、きまりや約束を守りながら、自分の身の安全を守ることができる子供

自然災害を想定し、自助・共助・公助の考えのもと自らの命を守り抜く子供を育成するために、上記のように子供像を設定した。

4 取組の実際

- (1) 自助・共助・公助の視点をもたせる取組
ア 教師の資質向上

子供の知識・技能を高めるためには、教師の資質向上は欠かせない。そこで、防災の専門家の講義を実施した。また、避難場所へ行き、標高の確認や避難方法等の確認も行った。

- イ 子供の知識・技能の向上

出前授業やワークショップなど防災の専門家による授業を実施した。

自然災害時に活用できる知識・技能の習得だけではなく、自分の命を守ること、他の人の命を守ることにもなると教えていただいた。

自分で自分の命を守ることが大切なんだね。



- ウ 家庭・地域との連携

各家庭で避難場所について話し合ってもらった。また、災害について疑問に思ったこと等は、役場や消防署などにインタビューを行った。

- エ 防災に関する教科横断的な教育内容

カリキュラム・マネジメントを行うために、各教科等の指導内容から防災教育に関する内容を分類・整理した。

- オ 環境整備

防災バッグは、中身を確認後、各クラス所定の場所に置くようにした。

また、防災コーナーの設置、ポスターの掲示を行い、振り返り・確認ができるようにした。



備えでは、こんなことが大切だったな。

- (2) PDCAサイクルを回して追究する学び

- ア 引き渡し訓練・避難訓練

引き渡し訓練は、風水害を想定し、年 1 回ドライブスルー形式で行っている。

避難訓練は、1 回目を 4 月実施に変更

し、配車計画や約束・身の守り方等の確認を行った。その後はショートで行い、予告なしや様々な場面で実施した。また、子供たち提案による避難訓練も行った。今後も、子供たちが自分の命を守るための行動を判断しながら取り組める実践を積み上げていく。



けがをした
ら、それを伝え
て助けてもらえ
ばいいんだ。

イ 避難所体験

子供たちが計画を立て、避難所生活体験を行った。電気・ガスが止まったと仮定して行い、車椅子体験も行った。



「学校にはスロープがない。」「暑すぎる」「非常食は時間がかかる。」「他に人がいると安心する。」
※新たな発見・問いが生まれた。

ウ 生活科・総合的な学習の時間の取組

低学年は、生活科と関連させながら、戸口集落の危険について調べ、広幅用紙にまとめた。また、危険を回避する方法を自分たちで考えることができた。中・高学年は、総合的な学習の時間に、新単元「自然災害から自分たちの命を守ろう」を設定し、3年以上の縦割り4グループで追究する学びを行った。体験活動や人との関りを重視しながら行い、そこから発生した問いについて考え、解決しながら取り組んだ。

ブロック塀にひび割れができているよ。大丈夫かな？



(3) 地域の安全意識の向上

ア 地域の災害の歴史に学ぶ

奄美豪雨の当時の様子について、奄美FMの方に話していただいた。



災害後は、自分たちにも何かできることがあるかもしれない。

イ 子供・地域・保護者による安全点検
教師・子供は月1回、保護者や地域の方々は、授業参観や学校評議員会の際に安全点検を実施した。

ウ 防災意識の啓発活動

低学年は、校区内の危険個所についてまとめた物を学習発表会でも掲示し、保護者・地域の方々にも見てもらった。また、紙芝居にまとめたものは、保育園で発表した。

中・高学年は、学習発表会や研究公開で防災について思いや考えを発信した。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 子供たちの災害発生に対する不安や起きた時の行動に対する不安が減少した。
- イ 学校生活の様々な場面で避難訓練を実施することで、適切に判断し、最善を尽くそうとする態度を養うことができた。
- ウ モデル拠点校として子供たちが学習したことを保育園や地域・保護者に発信することで、地域と連携し、地域に貢献しようとする態度を養うことができた。
- エ 保護者や地域への意識調査や安全点検等を実施したことで、安全に対する意識を高めることができた。

(2) 課題

- ア 今後も、体系的、計画的に防災教育を展開するためには、カリキュラム・マネジメントの更なる推進が必要である。
- イ 「助かる」「助ける」ための教育を行う上で、縦（保・中）や横（保護者・地域・行政等）の連携の強化が必要である。

6 終わりに

自然災害は想定外のことが起こる。なるべく想定外をなくし、ヒューマンエラーを起こさないよう努めることが大切である。